

## 1 受賞団体・個人の名称

しとう しょういち

志藤 正一 (山形県鶴岡市)

(問い合わせ先) 鶴岡市有機農業推進協議会  
0235-64-5803(直通)  
(経歴)

昭和41年、就農。

山形有機農業者協議会副会長、鶴岡市有機農業推進協議会会長に就任。海外を含む研修生の受け入れ、食農教育、消費者交流等有機農業の普及啓発に幅広く活躍している。

(受賞時の経営内容)

水稲・枝豆・柿 6.3ha、養豚 272頭



## 2 生産面の取組

### ①土づくり

- ・家畜の排せつ物と籾殻などを原料に、土着微生物を利用したぼかし肥料や堆肥を製造・使用。
- ・堆肥等を秋散布することによる土壌保全。

### ②病害虫防除の工夫

- ・不耕起移植及び紙マルチ移植による除草、アイガモ放飼による除草及び初期害虫防除のほか、機械による雑草防除技術も取り入れることにより、除草剤や殺虫剤等に頼らない栽培が可能。
- ・作物の生育状況、ほ場に生息する動植物の状態等を総合的に観察しながら、ほ場一枚毎に栽培方法の組み合わせを検討。

### ③リサイクルの実践

- ・食物残渣及び養豚部門から出る糞尿、籾殻などを、ぼかし肥料や堆肥に加工。
- ・豚尿に曝気処理を行い液肥に加工し、基肥や追肥として活用。

### ④温室効果ガス排出の抑制、生物多様性の保全等の実践

- ・冬期湛水によって土壌中の微生物や小動物の活動が活性化・増殖し、生物多様性の維持が図られている。
- ・わらなどの有機物を土壌中に鋤き込まない不耕起移植栽培により、メタンなどの温室効果ガスの発生を抑制。



有機農業オープンフィールド

## 3 経営面の取組

### ①コストを反映した価格での販路の確保

- ・生産者10名と共に設立した「農事組合法人 庄内協同ファーム」を通して、農産物や加工品を主に生協へ直販。
- ・米を中心に放射性物質検査を行い、安全性を販売先へ広報し情報発信。

### ②自立した複合経営の確立

- ・籾殻の一部を自家生産の堆肥と物々交換する以外は、ほぼ自らの経営内で賄い、畜産と耕種のバランスの取れた複合経営を確立。

## 4 取組の成果

### ①地域の水稲有機栽培、特別栽培面積を牽引

- ・藤島地域(旧藤島町)の有機・特別栽培は、鶴岡市全体の取組面積の多くを占め、鶴岡市の環境保全型農業を牽引している。

### ②有機農業マニュアルの作成に大きく貢献

- ・仲間の有機農業者とともに蓄積した技術を核として、水稲の有機栽培技術体系を「水稲有機栽培技術導入のための資料」にまとめ、鶴岡市有機農業推進協議会から発行。貴重な有機農業の指針として活用されている。

## 5 地域社会への貢献

### ①消費者等との交流

- ・人と環境に配慮した栽培方法で生産された農産物・加工品を広くPRし、消費者との交流を通してこの取り組み等の理解を深め、地元での消費拡大を図ることを目的に鶴岡市有機農業推進協議会主催で「つるおかオーガニックフェスタ」を開催(H24)
- ・首都圏消費者との積極的な交流活動を展開し、販売拡大及び有機農業に対する理解醸成を図っている。



### ②有機農業を推進する取組

- ・有機農業オープンフィールド(展示ほ場)を設置、運営し、現場技術の課題解決及びその確立、普及に貢献。
- ・小学生を対象とした「田んぼの生き物調査」を長年実施。
- ・給食に有機栽培米を試食提供するなど、食農教育に注力。
- ・有機農業志望者の研修希望を常に受け入れる体制を整備し、20名以上の国内研修生を受け入れている。
- ・海外の研修生も受け入れるほか、インドのアルハバード農業大学で講義。